

**奥多摩町における「遠隔予防医療相談事業」の取り組み
(東京都奥多摩町)**

[概要]

わが国の地域医療、特に過疎地においては、高齢化や医師不足などの問題が深刻である。また、高齢者の医療費が増加し、自治体の負担増となっている。奥多摩町においても、山間部が多く通院が困難という物理的な制約に加え、高齢化の急激な進行、生活習慣病の割合が高いなどの課題をかかえており、地域の健康管理が喫緊の課題となっている。今回の遠隔予防医療相談の狙いは、いわゆる「未病」領域の住民が、医師やコメディカルと十分なコミュニケーションを取って、健康維持・向上のために食事や運動など日ごろの生活パターンを改善していくことにあるが、それを支え促進するために、IC (Information Communication Technology) を活用して地域住民のコミュニティ形成支援を行う点に大きなポイントがある。

[コラム]

奥多摩町では、地域住民の健康管理について充実を図ってきたが、今回、慶応義塾大学、栗原クリニック(東京:日本橋)、(株)エンサイクロメディカ、日本電気(株)、(株)KDDI 研究所と共同で、電話・メール・テレビ/Web 会議などの様々なツールを統合するユニファイド・コミュニケーション技術を活用して、対面でなく、ICT を用いた遠隔のコミュニケーションでも医師と住民間のコミュニケーションが十分に行え、住民の健康維持・向上に効果的であるかを実証した。実証事業では、これらの「遠隔予防医療相談システム」を活用し、住民は医師と月 1 回、サポートスタッフ(コンシェルジュ)と 1~2 週間おきに、1 回 15 分~20 分間の健康相談を地域の集会所などで行った。事前に測定した体重、血圧の情報などを見ながら、食生活/健康状態・生活習慣、心配事などについて健康相談を行っている。

この実証事業の効果としては、奥多摩町の住民の健康に対する意識が向上し、運動習慣の定着や食生活習慣の改善が見られた。担当した医師によると、「通常、行動変容を起こす率は通院患者では数%だが、奥多摩では大多数に達した」と述べている。その結果、住民が毎日みんなで歩く地域サークルができ、運動習慣が定着した。さらに、住民が塩分取得量の削減やカロリーを意識した食生活の改善などの効果が顕著に現れた。

システム構築を担当した企業側の参加意義は、医師と“生活者”である多くの高齢者に情報システムを使ってもらうことで、ユーザインターフェースのあり方や利用者の利便性を高める機能、安心して相談できるシステムの信頼性・安全性の確保方法等が分かり、今後のシステム開発において貴重な経験を得ることができた。

[推奨される通信速度]

1Mb/s 以上のブロードバンドアクセス(各集会場等)

※今回、NTT B-レッツ回線を利用

[制作費(内公的補助額)]

総事業費: 87,990 千円

(内 地域情報通信技術利活用推進交付金 87,990 千円)

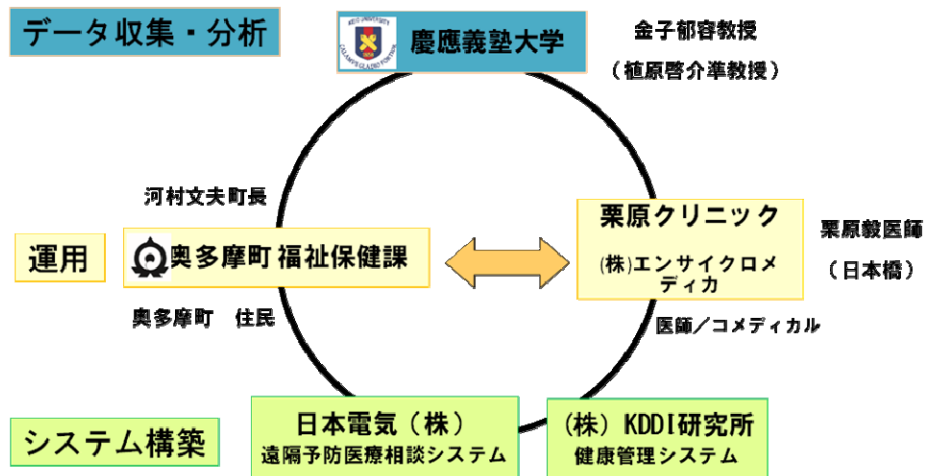
[総務省 平成 21 年度「ユビキタスタウン構想」予算による]



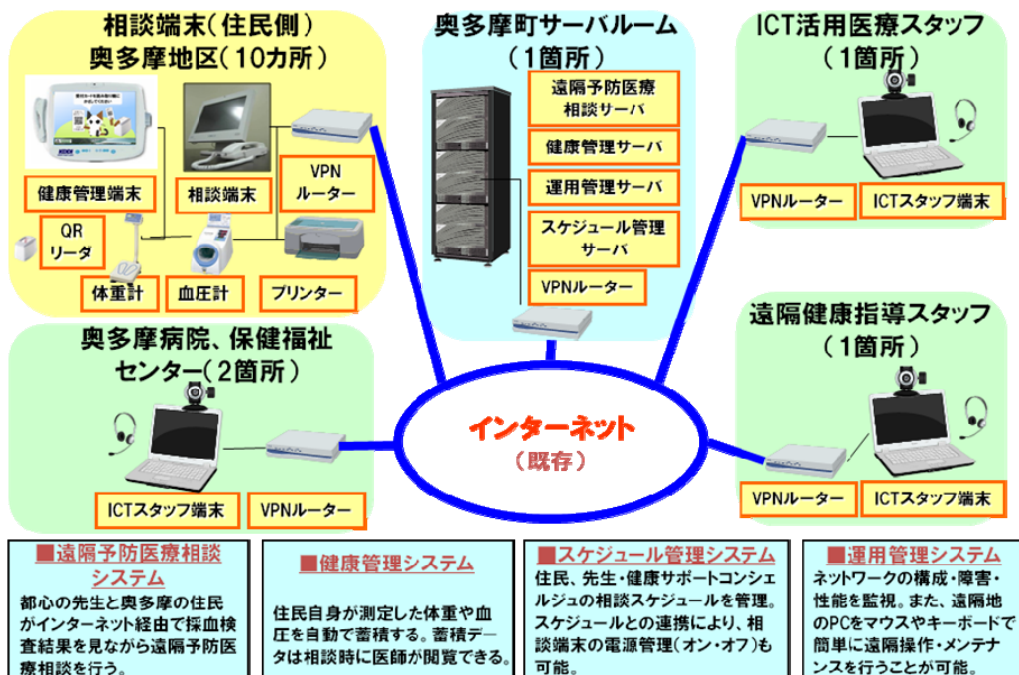
奥多摩町 生活館における運用状況

[サイトイメージや概要図等]

○事業体制



○システムイメージ



[問合せ先]

事業全般: 奥多摩町役場 福祉保健課・慶応義塾大学

TEL 0428-83-2777 E-mail kokuho@town.okutama.tokyo.jp

(分析評価) 慶応義塾大学 環境情報学部 植原 准教授

TEL 0466-49-1394 E-mail okutama-info@sfc.wide.ad.jp

システム: (株)KDDI 研究所・日本電気株式会社

TEL (代表) 049-278-7450 E-mail inquiry@kddilabs.jp